

路地百選推薦書

推薦者氏名：事務局

推薦する路地（のまち）の名称	伊豆修善寺温泉
所在地	静岡県伊豆市修善寺

【推薦する理由（路地のよいところ）】

桂川沿いに湧く出湯の町「修善寺」。川の両側に山が迫り、必然的に市街地の道路は狭くなる。狭い道路の沿道に温泉宿と土産物屋飲食店が並び、温泉街の風情が漂っている。また、桂川行きつ戻りつしながら散策路があり、竹林の小径などの見所、散策スポットとなっている。

伊豆の小京都といわれるだけあって、桂川、嵐山、渡月橋など京都同じ地名が見られる。

【写真添付】



↓ 頼家の墓へ続く路地

↑ 温泉街のメインストリート



↑ 竹林の小径



↓ 名物蕎麦屋

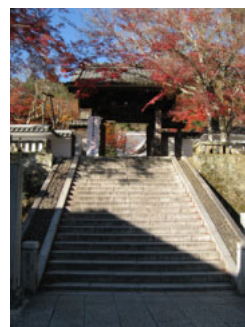


↑ 楓橋



← サービス画像
「桂川」

→ シンボル修禅寺



路地	面積	約	h a	路地の延長	約	m
のまちの概要	まちの成り立ち、特色等	平安初期に弘法大師が修禅寺を開基した。川原で病気の父親の体を洗う少年のために「弘法大師が独鈷を用いて岩を砕き、そこからお湯が湧出した」との開湯の伝説が残る。地名を桂谷と呼び、寺名を桂谷山寺といていたが、鎌倉初期に修禅寺となり、地名も修禅寺と呼んでいる。この時代に源範頼、頼家が幽閉され暗殺されるという源氏興亡の哀史の舞台となっている。室町後期に寺名を修禅寺、地名を修善寺と区別するようになった。徳川初期には、金山奉行の大久保長安が瓜生野金山を開発し、慶長小判などの金が採掘された、紙谷では修善寺紙が漉かれ、これを色よし紙といって上流社会で珍重された。明治になってから湯治客専用の内湯旅館が誕生し、交通機関などが整備されて、多くの文人墨客が訪れるようになった。 平成16年に修善寺町、中伊豆町、天城湯ヶ島町、土肥町が合併し、伊豆市となった。				

路地のまちの概要は記入できる範囲で結構です。それぞれの枠の大きさは各自で調整願います。